

- ・市町村名 薩摩川内市(24) 出水市(7) 阿久根市(2) さつま町(2)  
いちき串木野市(3) 日置市(1) 霧島市(2) 奄美市(3) その他(2)  
初めて参加した(10) 参加したことがある(36)

#### ■研修講座(米衛政光さんの講演)は、いかがでしたか?

- ・具体的でとてもよかったです。
- ・とてもわかりやすかったです。米衛先生の実体験をもとに話して下さるので、とてもわかりやすかったです。先生が教えてくださったことを職場でもいかしていきたいと思います。
- ・色々な専門的な知識を得られ、先生のていねいな説明をしていただき、大変有意義な研修になりました。
- ・勉強になりました。
- ・現場の指導が伝わり、分かりやすくていねいなお話でした。
- ・発達障害の種類的基本的な行動や特徴を具体的に示していただいたので、わかりやすかったです。また、その関わり方も実践を交えて具体的に教えていただいたので、実行してみようと思います。
- ・障がいのある子などのことを勉強する研修会に参加したのは初めてでした。どういう寄り添い方がよいのか、分からない部分が多かったですが、米衛先生の寄り添い方、言葉など“なるほど”ということがたくさんあり、少しずつだと思んですが、気になる子に対する言動を変えていこうと思います。米衛先生の講演は、とても聞きやすく、勉強になることがたくさんでした。
- ・指導員を始めて間もなく、子どもへの対応に少し不安があったので、とても参考になりました。
- ・障害児の対応の仕方など、わかりやすく勉強になりました。
- ・具体的な子どもに対する接し方、言葉がけの大切さを勉強できました。
- ・とてもわかりやすいお話でした。
- ・講座をききながら、日々の学童での自分の姿、言葉がけを反省しました。これから、また子どもに寄り添って、言葉がけの仕方が明日からの生活に生かせようと思います。
- ・うんうん納得、あ～そうなんだと素晴らしい講演でした。今後に生かしたいと思います。とてもわかりやすく、あっという間の2時間でした。
- ・最近、私自身気持ちに余裕がなかったので、子どもとの関わり方を見直すいい機会になりました。いろいろな資料をもとに実際の話なども聞くことができ、とてもよかったです。気になる子どもについて、まだまだたくさん話を聞きたかったです。
- ・温かいお人柄が伝わってくるお話でした。
- ・言葉かけの仕方、子どもたちの行動が変わる。…頭では分かっているけど、現実にはなかなか実践できないでいます。手にあまる子が増えている気がします。障害! ?なの? 具体的な対応の仕方が、いまいち分からなかった…
- ・講演の中の全てが、今の自分や学童の子にあてはまり、とても勉強になったと思います。子どもの気持ちに寄り添うということが、大変なことだけど大切なこと、支援する側の悪循環や二次障害を防ぐことが大切だと思います。
- ・LD、ADHDの支援のポイント。寄り添う…子どもに対して接し方、話を聞いて奥深いなあと思いました。上から目線での指示の仕方じゃなく、一人ひとりの良いところを見つけ接していきたいと思います。
- ・学童支援をされていていらっしゃるだけあり、身の入った初心者である私でもわかりやすかったですし、説明もスムーズに頭に入った。現場で実践され、とても良かったです。
- ・言葉にするのがとても難しいです。
- ・とても良かったです。分かりやすい説明でした。これからの指導に取り入れていけるようにしたいです。
- ・大変勉強にもなり、自分自身の今後の指導として役立てていきます。
- ・児童への寄り添い方をもう一度考えてみようかなと思いました。
- ・身近な問題で、大変役に立ちました。
- ・子どもたちへの接し方等、共感できる部分がたくさんあり、とても為になるお話でした。
- ・具体例をまじえて詳しくお話を聞かせていただきました。日々の保育を反省することの多いこと…。改めて、また指導員同士で話をしたいと思います。
- ・とてもよかったです。寄り添うとは、指導とは～とてもわかりやすい米衛先生のお話でした。学童に限らず保育の現場でもとても大切に引き合わせなければならないことだと、改めて反省と振り返る良い機会となりました。
- ・とても貴重なお話を聞かせていただいたと思っています。発達障害を持つ子どもへの対応の仕方などを中心にお話をしてくださりましたが、発達障害を持たない子どもにも対応でするお話だと感じました。実際の学童保育にすぐに役立つような内容でした。貴重なお話をさせていただき、ありがとうございました。

- ・とても丁寧で分かりやすかったです。実際の経験を通しての内容に、イメージしやすく勉強になりました。また「あなたの文末は、どれ？」など普段の子どもたちへの声かけなどの振り返りになり、生かしていきたいと思いました。
- ・プリントの内容とプロジェクターを使い分かりやすい内容だった。質疑応答の話が興味深かった。講師の持つ豊富な事例をもう少し聞いてみたかった。
- ・演題は、「気になる子ども」への寄り添い方でしたが、日頃の保育の中で考えていくべきことであり、とてもよかったです。グレーゾーンの子どもたちが多く中、どう対応したらいいのかと思いつながらの日々の生活で、当然ではあるけれど、講演を聴くことでそうしたいと思える気が増してきました。早速、全員ミーティングで伝えて実践していきたいと思います。
- ・過去の失敗談、また現在の実践例、現場での成功例など、状況が思い浮かぶお話ばかりでした。すーっと入ってきました。お話を聞きながら、私は未熟だなあ…と感じることばかりでしたが、今日を機に言葉かけ方、文末の言い方など変わることができそうな気がします。
- ・発達障害の子だけでなく、一般の子に対しても大変参考になることが多く勉強になりました。
- ・子どもさんへの対応の仕方など、再確認することがありました。当施設では、健常児さんを学童保育で、障害のある方を放課後デイサービス、児童発達支援でお預かりし、それぞれの時間と共有する時間をお互いが過ごすことで、丁度良い相互作用が得られることがあります。どんな子どもさんでも、ひとりの人間として向かい合うことで、気持ちもちが解決するのではないかと思います。
- ・子どもをその気にさせる声かけ、とても勉強になりました。自分でも気をつけて声をかけるようにしてはいても、時間的余裕がないときは、命令口調になりがちなので今後気をつけていこうと思います。ほめ方ね「できたね」ではなく、もっと工夫していこうと思います。
- ・すごく分かりやすく、関わり方など聞いて良かったです。自分の子どもとの関わり方をもう一度考え直す機会になりました。今日学んだことを少しずつ現場でやってみて、子どもとの信頼関係をもっとうまく築いていけたらいいなと思いました。否定せずに子どもの心をもっと深く読みとれるように、しっかりと子どもと関わっていこうと思いました。
- ・わかりやすい研修でした。
- ・いつも、バタバタの生活の中での保育ですが、やさしく、やさしく、言葉が言えるのか心配です。頑張って向き合いたいと思います。
- ・再度、研修を受けたい。
- ・実践に基づき、また実際に実演していただいたりで、気になる子どもたちへどう言葉かけすればよいか、とても分かりやすかったです。
- ・大変参考になりました。発達障害に関する研修は何度も受けていますが、具体的な関わり方については、実際に児童と接している現在、試行錯誤してる毎日です。これまでいただいた資料を見返したりして、他のスタッフと共に取り組んでいますが、今日の講演から実践的な提案や具体的な方法が学べました。とりわけグレーゾーンにいるのかなと感じる児童が増えている今、保護者の方も関わり方に不安を感じておられます。学んだことをみんなで共有し、あてはめていきたいと励まされました。
- ・とっても穏やかで、ゆっくり丁寧に講演をしてくださり、とっても良かったです。具体例をあげながら「気になる子ども」への寄り添い方、診断されていない子も預かっていらっしゃるということ。学校の教育現場でも、学級に数名いる中でも言葉かけの大切さ、具体的に丁寧に教えること、視覚的な情報など、指導のヒントを得て、明日からの指導に役立てたい。
- ・実践に基づく話で、心にしみこむ感じでした。専門的な資料もあり、これからじっくり目を通そうと思います。
- ・障害のある子どもへの対応、声かけで何が大切なのか、障害のある子どもの心のやみ、辛い気持ちを知ることができ、これから指導員がどのように対応すべきかを学ぶことができた。

#### ■研修講座で印象に残ったことは、どんなことですか？

- ・子どもへの寄り添い方がとても勉強になりました。ダダこねやパニックの時の子どもへの寄り添い方で、すぐに近づかない、少し離れたところで見守る、とても勉強になりました。
- ・距離をおいて話す。
- ・(例年通りですが)とても勉強になります。明後日からの指導に生かします。
- ・発達障害児の特徴を具体的に表してもらったことで、自分の所にもこういう子どもがいるなあと思いました。その子どもとの接し方についても、もう少し考えていこうと思いました。交流会では、いろんな話が聞けてよかったです。

- ・“指導”の仕方についての話が印象に残りました。
- ・気になる子どもへの対応は、今いる学童にもあてはまるが多々あったので、その対応に関するお話は印象に残りました。
- ・支援のポイントで指示の出し方の工夫がよくわかりました。グループ別の討議で、色々他の学童の方々と話ができてよかったです。
- ・“あなたの文末はどれ？”です。とてもとても反省しました。「～しようか」を心がけて行きます。
- ・それぞれの障害にあった言葉かけの仕方、その子ども心の内について話が残りました。具体的例で分かりやすいと思いました。
- ・子どもへの関わり方、あなたの文末はどれ？ 反省しました。「～しようか」と声かけ、がんばります。
- ・指導員の言葉かけで、子どもがスムーズに次の行動にうつったりすることは、普段の生活で感じることでした。言葉かけを重視した関わり方が今までできていなかったのも、否定的な言葉かけよりも、誘いかけの言葉かけができるよう指導方法を見直していこうと思いました。
- ・子どもに寄り添うとは、まず、初めに一番大切なのが、悲しみを深く読みとることだと思いました。
- ・叱るときは、声が低く、短く簡単に！ まずは認めてやる！
- ・グループごとに話し合ったこともよかったですと思います。
- ・子どもの個性を認め、その子の一番いいところを見つけて伸ばす。指導者のスキルアップが大事だなと思います。
- ・毎日の自分の指導に、まだまだ子どもの気持ちに寄り添えていない実情がひしひしと感じられた。とても反省と、今後の仕事に対する姿勢が少し変わっていけば、子どもたちの心をつかめて楽しくなると思います。
- ・文末の件、とても良かったです。
- ・共感的自己肯定感（インクルージョン） 自己復元力、今までの研修に出てこなかったのも、子どもたちにとっても大切だと思った。
- ・間を持って接する…その場面になったと、実際やっていないな、と反省です。言葉かけひとつで子どもの行動が変わる…「～しようか」の言葉かけがすぐに出てこれるように、気をつけていきたいです。
- ・児童に対しての声かけで、予告、誘いかけでとても勉強になりました。
- ・誘いかけの言葉の重要性。
- ・子どもたちへの接し方や特に目での情報の部分が印象的でした。言葉だけではなく、視覚での情報も児童には大切であることを改めて気づき、考えるきっかけになりました。
- ・特別支援クラスの子どもの話を質問したのですが、みんなに特別感を与えるのもいいんだと、改めて実感しました。
- ・寄り添うこと、指導とは
- ・最後の意見交換で、他のクラブのお話を聞いて、日頃の様子など聞いて良かったです。共感できる部分や参考にしたい部分が聞いて良かったです。
- ・関わり方について…間、予告、誘いかけ、選択…『決定の主人公』にできるように接したいと思います。
- ・生命と社会的マナー、人権に関わる事例に対しては、毅然と注意すること。
- ・二校の子どもが来ています。障害児に対する子どもたちへの対応をお聞きしたいと思います。
- ・“言葉に添えられた気持ちを理解することができない” 日々保育する中で「なぜ、この子はこんなことを言ってしまうのだろう？」と思う場面がありますが、今日なぞが解けました。知的発達の遅れを伴わない高機能障害についてもっと学ばなければならぬと思いました。
- ・話しかけるときの、文末の表現、強制連行のようなやり方は、だめ等。頭の中では理解していてもやってしまうことが多く、反省しました。今後はもっと気を落ち着けて対応していこうと思います。
- ・講座の後のグループ会で、貴重な意見が聞けました。今後に活かしていければと思います。
- ・私と一緒に共に頑張っていこうという気持ちで、指導するように常に心がけているのですが、寄り添うためにもっと悲しみを深く読み、自己肯定感が大きくなるよう活動していこうと思います。
- ・「できない自分」と「したい自分」2つの自分でゆれているなというところが印象に残りました。そういう気持ちを持っているだろうと考えたことも今までであったけど、今日の話聞き、やっぱり子どもたちは自分の中で葛藤して本当に苦しんでいるんだと、改めて感じました。そして、その気持ちを少しでも楽にすることができるならば、少しでも楽にしてあげたいと感じました。言葉のかけ方一つで、相手の気持ちを軽くしてあげたり、逆に追いつめたりもあるので、もっとしっかり考えて声かけでいいなと思いました。
- ・LD、ADHDが、分かっていなかったこと。今少しづつ知られたりするようになって来ていると思った。子どもたちの人権を守ること。
- ・グループでの意見交換では、色々な児童クラブのコミュニケーションがとれ、悩み事など聞いて良かったです。
- ・実践的であればいい。
- ・日々の子どもたちの関わりの中で（狭い教室に20名弱の子どもがいて、危険防止のため）つい～ダメ、～いけません！と制止しています。そして、私も子どももスッキリしない感じを悩んでいたのですか、米衛先生のお話

にあったように、～でしょうか。と明日からは言葉かけしていきたいです。

- ・生きづらさを感じている児童一人ひとりを大切に扱っていく姿勢をもって見守ることを改めてしていこうと思います。(寄り添える余裕とチャンスだという思いを持つ)
- ・立ち直るまで待つ。決定する主人公で、目を見ない、声をかけないということ。(自分で立ち直る力を使って立たせる)(目線に立って、相手を見るだけではない)
- ・子どもの立場に立った指導に心がけていこうと思います。子どもの良いところを一つひとつ見つけていこうと思います。
- ・子どもは、そうでない自分、そうでありたい自分とふたりの自分でゆれている。児童員が主ではなく、子どもが発信していることに反応することが大切である。子どもへの評価は他人と比べて評価するのではなく、一人ひとりの子どもによって評価していく。自分の命、他人の命、社会のルールに反することにはしっかり「だめ」と叱る。それ以外は「～でしょうか」と肯定的に声かけをしていく。

#### ■今後、どんな研修会に参加してみたいですか？

- ・今後、研修会には参加したい。
- ・もっと気になる子・障がいのある子への支援の仕方について研修に参加したいと思います。
- ・子どものことに加えて、その保護者との関わりについても、いろいろお話を聞きたいと思います。
- ・日々の実践方法を学びたいです。
- ・実践的な(折り紙、室内遊び等)も学びたいです。
- ・けんかや子ども同士のトラブルへの対応や、今日のような気になる子どもについて、さらに詳しく話を聞きたいです。
- ・地域と学童保育。
- ・子どもとお手伝い。
- ・遊び(宿題→おやつ→外遊び)後の過ごし方で、なにかできる遊び等。
- ・保護者、学校との連携について
- ・学童クラブにおける生活づくりについて、など。
- ・通信の作り方など
- ・手作りおやつの講習会
- ・障害について詳しくもっと知りたいので、こういう研修があれば、ぜひ参加したいと思います。
- ・親との関わり方の研修に参加したいと思います。
- ・交流の場は大事ですね。
- ・実践的、具体的な改善例
- ・各学童の事例発表など聞いてみたいです。今回の研修会も大変勉強になりました。
- ・学童支援「ゆめの樹」の見学。「学童ほいく」の本のディスカッションの様子の見学。